

群青

仙台市立第一中学校
第1学年だより
第6号 2022.6.10

校外学習俳句 『山寺で一句』

数多い作品の中から、各クラス1句ずつ掲載させていただきます。
※原文の表記のまま掲載します。

新緑や はずむところと 息づかひ	1組	K.	K
山寺で 友と笑って 汗流す	2組	H.	O
頂で 美しき若景 舞い上がる	3組	Y.	H
汗ばたり 終わりはまだか 石階段	4組	T.	T
がけの上 つかれをいやす 風の音	5組	S.	K
緑の景 広がるその先 ひかりあり	6組	S.	K
山寺で 汗をにじませ また一歩	7組	O.	S



『全緑で青春の軌赤を残せ!』

中総体に向け、横断幕とミニくす玉を作成しました



中総体に向けて一中の士気を高めるべく、学年委員の企画で、横断幕とミニくす玉を作成しました。見出しは、一中全員がひとつの目標に向かって邁進するイメージで決めたスローガンです。2組H. Oさんが描いたワンカット、6組のS. Kさんが作ったくす玉がいいアクセントになっています。

市中総体は、11日～13日（部ごとにスケジュール異なります）に実施されます。

1年生にとっては初めての中総体。感染症対策のため多くの制約があり、広くいろいろな競技を観戦することはできませんが、一人一人が一中生としての自覚を持ち、一中躍進のためにそれぞれの役割をしっかりと果たしてほしいと思います。

中総体に向けて

8日（水）各学級で事前指導を行いました。

また、既にご覧いただいていると思いますが、同日学校から「市中総体及び振替休業日のお知らせ」を配布しました。

事前指導で配布したプリントに詳細な内容が記してあります。また、部毎の集会を踏まえ、個別の行動予定（3日分）を記入させましたので、そちらもご確認願います。保護者の皆様もご一読いただき、子どもたちが3日間無事過ごせるようご配慮願います。

中間考査前であり、自宅学習対応として国語、社会、数学の自宅学習用プリントを配布しました。

これらの課題は、提出を要するものではありませんが、考査に向け確実に取り組んでもらいたいと思っております。

「ボランティアし隊（小野命名）」助けてもらっています

学校生活のいろいろな場面で力を発揮し始めた子どもたち。学校生活にも慣れ、少しゆとりが生まれ始めたのでしょうか。「先生やりますか」と進んで仕事を引き受ける子どもたちが増えてきました。3組のT. M君は「下膳の手伝いをし隊」。給食後の下膳作業はかなり慌ただしく、猫の手も借りたいくらいの忙しさですが、進んで作業に加わってくれたのがM君です。本当に助かっています。また、毎朝教室の空気清浄機のフィルターを掃除していましたが、早い時間に登校する4組のK. Sさん、5組のN. Sさんは、「先生やります」と進んで引き受けてくれました。以後、各学級の空気清浄機のフィルターをほぼ毎日掃除してくれています。「青」学年の子どもたちは、そんな心優しい子が多いようで嬉しく思っています。



初めての定期考査（中間考査）

今月27日(月)に初めての定期考査を実施します。

慣例では、定期考査実施2週間前に、範囲表と計画表を配布することになっていますが、今回は、中学校での最初の考査であり、中総体にも絡むことから、通常より早めに配布させていただきました。計画表には日々の取り組みを記載するよう話しておりますので、そちらをご覧くださいながら家庭学習の様子にもご配慮ください。

27日の時間割 ①理科 ②国語 ③数学 ④社会 ⑤英語 ⑥総合

「探求の対話」円座での話し合い

「探求の対話」は、探究の源である「問い」を大切にしています。「不思議だな」「知りたいな」という子どもたちの「問い」について、円座になり、みんなで作った毛糸のコミュニティボールを使って対話を進め、内容を掘り下げながら考えを深めていきます。対話をとおして考えを深める「探求の対話」は、一人一人が互いを尊重して多様な考え方を共有することができ、心や集団の絆を育み、居心地のよい学級づくりや集団づくりに効果があるとされています。



1学年でも取り組みを始めました。テーマの設定や、話し合いのルールなど、指導する私たちも含め課題はありますが、和やかな雰囲気の中で、互いに考えを深めていく課程はとても重要なことと捉えています。事後の感想を聞くと「楽しかった」「またやりたい」ということに加え、「頭を使って疲れました」との回答もありました。ただ、「話す」「聞く」ということに集中する中で、いい関係づくりに寄与するものであることを実感してくれたようです。今後、折に触れ実践していく中で、学級・学年全体で「セーフティ」な関係性を構築していきたいと思えます。

余計なことかもしれませんが・・・お子さんの携帯をご覧になっていますか？

携帯電話・スマートフォンの所持状況はしっかり把握してはおりませんが、起因するトラブルの情報が耳に入ってきましたので、紙面をお借りして一文掲載させていただきます。

携帯電話のトラブル、弊害については誰もが認識していることではあると思えます。

私たちも、スマイルライフ、アンケート、日頃の様子を通して子どもたちを見つめています。スマホなど端末の使用状況まではなかなか目が届きません。一方、トラブルに発展した場合、子どもたちが負う心の傷は決して軽いものではなく、それまで築いてきた大事な関係も、一瞬で崩れ去ってしまいます。また、事後の指導に費やす膨大な時間は、子どもたち、保護者の皆様にとってかなりの負担になります。

「自分では歯止めがきかない」と訴える生徒もいるのが現実です。

どうか、「トラブルに発展する前に」「子どもを守るために」端末を子どもたちに持たせる場合は、その使い方について、ご家庭でお話し合いいただきたいと思えます。

具体的には、フィルタリングを設定すること、子どもの端末を保護者が自由に見ることが出来る状況にしておくことが肝要ではないかと思っています。

個人的には、これまで多くの事例に関わってきた中で、中学生にスマホを持たせるのは時期が早いと考えています。ですが、その点についてはご家庭で判断なさるのは当然のことです。

余計なことかもしれませんが、ご家庭での十分なお配慮をお願いします。

